

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 3 月 31 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 [redacted]

所在地 [redacted]

評価機関名 株式会社 にほんの福祉ネット

認証評価機関番号

[redacted]

電話番号

[redacted]

代表者氏名

[redacted]

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	[redacted]	福祉、経営	[redacted]
	②	[redacted]	福祉	[redacted]
	③	[redacted]	経営	[redacted]
	④			
	⑤			
	⑥		福祉	
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	放課GO→クラブみた			
事業所連絡先	〒	108-0072		
	所在地	東京都港区白金3丁目18番2号 御田小学校(仮校舎内)		
	Tel	03-3445-9200		
事業所代表者氏名	三田 彩香			
契約日	2025 年 6 月 18 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 9 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 11 月 14 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 9 月 1 日			
自己評価結果報告日	2025 年 11 月 14 日			
訪問調査日	2025 年 11 月 21 日			
評価合議日	2025 年 11 月 21 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査では、利用者の希望や状況に応じて、アンケート調査を実施した。事業評価については、帳票配付時に内容や記入の流れを説明した動画を提供し、第三者評価の理解と記入方法を周知徹底した。訪問調査については、管理者に加え、運営法人の本部職員も同席を得たうえで、事業の現在に至るまでの経緯、現状、今後の見通しについてヒアリングを行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 三田 彩香

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	・子育て支援を通じて社会に貢献する ・子どもたちの発想・感覚を育む ・高品質なケアを実現する、成長と学びの企業文化 ・子どもたちは「限らない希望」であり、私たちの「宝」です。 ・将来、どんな「大樹」と育っていくのか、その可能性は無限です。 ・大樹と育つためには、その土台となる「根っこ」がいかに太く深く、広く伸びるかがとても重要になります。 ・ブロケアは、この仕事を成し遂げるため、子どもたちの輝ける未来のために、たゆまぬ努力を行ってまいります。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 ・豊かな人間性と倫理観を備え、常に自己研鑽に励む人材 ・児童福祉の専門職としての自覚と誇りをもって責務をまっとうできる人材 ・児童の人権を尊重し、児童一人ひとりの気持ちに寄り添い、共に悩み・一緒に考え・気持ちを受け止められ、個性に配慮した支援を行える姿勢 ・保護者の気持ちに寄り添い信頼関係を築いていき慎重且つ丁寧に対応していく役割 ・地域の子育て支援に携わる関係各所との信頼関係を築いていく
	(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) ・児童の安全安心を守り、地域の方々との信頼関係を築く ・児童の主体性を伸ばし、成長を支援する ・寄り添いや傾聴を心掛け、相手と信頼関係を築く ・主体的に学び、育成の資質を向上させる姿勢 ・相手を受け入れ、チームワークを大切にする姿勢

調査対象

調査時の全利用者

調査方法

アンケートによる調査

利用者総数

35

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
35		35
12		12
34.3	0.0	34.3

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

<アンケートの回答者>

「本人」58%、「本人が家族と話し合いながら」42%、「家族が本人の気持ちを推察して」0%、「その他」0%

<総合的な満足度>

「満足」83%、「まあまあ満足」17%、計100%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	7	5	0	0
回答者の58%が「はい」と回答した。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	12	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				

3. おやつの時間が楽しいひとときになっているか	10	2	0	0
回答者の83%が「はい」と回答した。				
4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	11	0	1	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	7	4	0	1
回答者の58%が「はい」と回答した。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	1	0	1
回答者の83%が「はい」と回答した。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	9	2	1	0
回答者の75%が「はい」と回答した。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	12	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	11	1	0	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				

10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	10	1	0	1
回答者の83%が「はい」と回答した。				
11. 子どものプライバシーは守られているか	10	1	0	1
回答者の83%が「はい」と回答した。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	12	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	3	1	3	5
回答者の25%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○ 非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○ 非該当
	カテゴリ1の講評	
	事業の根拠に遡って、「自分たちのしていること」「していくこと」を確認している 年度当初には、当事業を運営するにあたって区から法人に示されている仕様書の規定について、読み合わせを行っている。これにより、今回の評価対象事業である「学童クラブ」と、放課後児童育成事業(「放課GO→」)とを併設する「放課GO→クラブ」の概要や役割について、常勤・非常勤の両職員による理解を図っている。年間目標については、前年度の子ども姿を踏まえて年度末には常勤職員を中心として作成している。 「何を大切にしているのか」を職員・保護者に継続的に発信している 事業所内では、施設長が全体ミーティングにおいて年間計画表を職員に配布し、「この一年を通して、何を大切に、どんなことを行っていくのか」を発信し、全体で共有している。保護者に対しては、利用開始に際しての説明会や保護者会などの機会を通して、当事業所が大切にしていることを説明している。運営法人のホームページにおいては、保育事業や学童事業における長年の実績を背景として、「どんなことを大切にしているのか」を発信している。 本社、事業所内、地域の関係者と情報を共有している 運営法人として確立した手順に沿って、事業の検討・決定・周知を行う実践を慣習化している。日々の運営に関しては、本部のエリアマネージャーやスーパーバイザー等とも連携し、現状の共有・各種相談と決定などを丁寧に行っている。施設長会、職員会議、朝礼や昼礼、終礼なども、不可欠の情報共有の場として日々活用している。当事業所を管轄する支所高輪地区総合支所が事務局を務める協議会には、2つの地区の青少年対策地区委員会、小学校PTAなどから出席があり、事業の現状について共有している。	

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(000000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当
サブカテゴリー2(2-2)				
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている			○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(00)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している			○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる			○非該当

	カテゴリー2の講評
	多角的な視点から当事業所が置かれている環境を確認している 保護者会での質疑応答、日々のコミュニケーションを通して、保護者の意向を把握している。エリアマネージャーによる訪問や面談、人事考課の仕組み、満足度調査などを通して、職員の意向を収集している。区内の事業者で行う情報交換会、施設長会などを通して、地域の現状やニーズを確認している。そのほか、港区からは地域の情報を、本社エリアマネージャーや本社に設けられた安全推進室からは業界全体の動向に関する情報を、それぞれ得ている。こうした取り組みを通して、当事業所を取り巻く環境について把握している。 目標に基づく計画を作成し、振り返りを行い、着実な実行を図っている 運営法人として中長期における事業方針に基づき、今後の見通しを法人事業計画として形にしている。事業所では、これを踏まえて年間事業計画(年間計画表)を作成している。設定した年間目標に基づく事業の進捗は、4半期ごとに現状の振り返りを行うことで確認し、必要な修正を行い、着実な実行を担保している。法人レベルでは、経営連絡会議において、実績の振り返り、予算の修正や見直し、法人事業計画の進捗状況などが行われている。 内部監査の活用により、業務の適正かつ着実な推進を図っている 法人として、独立した部門が業務プロセス、内部統制、リスク管理などについて、客観的に検証・評価する活動を導入している(内部監査)。事業所内における掲示物の確認などのほか、予算計画、事故防止や防災の対策、鍵の管理、研修の進捗状況の確認などを行うことで、法令順守、業務効率化、ガバナンス強化などを図り、健全な運営を支えている。

3 経営における社会的責任		カテゴリ-3	
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評 ルールやマナー、責務などの浸透を継続的に図っている 就業にあたっての各種ルールのほか、個人情報の保護、ハラスメントの防止、社会人としてのマナーなど、福祉事業に携わる者として期待される責任や、社会人として求められる責務について、ルールの浸透や研修による理解の促進を図っている。コンプライアンスや人権擁護など、事業所として、また、職員として求められる点についても、繰り返し浸透を図っている。エリアマネージャーを加えた全体でのミーティングでも、気になる／適切な言動や関わり方、距離感などについて、事例を出し合って振り返り、各自の自覚を促している。 地域との関わりの中で、貢献や協働の関係を築いている 小学校のPTAが主催するお祭り、区民まつりなどでは、ダンスの発表などを通して参加している。「児童の成長を通じて地域貢献していく」との考えの下で行われるこうした取り組みは、子どもの経験の幅の広がり、社会性の育ち、満足感や達成感といったプラスの面にもつながっている。区内の同事業者による情報交換会への参加は、共通課題の検討や参考となる情報の共有などのメリットを享受している。		

4		リスクマネジメント		カテゴリー4
サブカテゴリー1(4-1)				
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている			○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている			○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している			○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる			○非該当
サブカテゴリー2(4-2)				
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている			○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している			○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている			○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している			○非該当
カテゴリー4の講評				
法人本部を中心に、子どもの安心・安全の確保に向けた取り組みを進めている 法人では、運営する各施設における安全な保育、育成支援、虐待防止など、安心・安全のための高い業務水準を維持していくため、専門部署を設けている(安全推進室)。報道などで触れる他事業所での事例などについても、そこからくみ取るべき教訓を引き出し、各施設と共有している。そのほか、事故防止の促進、安否確認システムの管理、事業継続計画(BCP)の確認と周知などにも取り組んでいる。 日々の子どもの安全な活動を保障すべく、ハード・ソフトの両面で取り組んでいる 育成支援の活動中に起こりうる事故やけがに備え、いくつかの段階に分けて対策を講じている。事故や事故に至らない事例(ヒヤリハット)などをとらえ、振り返りの過程を記録に残し、全体で共有している。また、ハード面・環境面での配慮としては、2部屋ある育成室での子どもの安全な活動を保障すべく、整理整頓や各所の点検、角にはクッション材を施すなど、転倒や衝突などの際の被害の防止・軽減を図っている。感染症対策なども、複数の要因によるり患・感染拡大に備え、マニュアルを活用して学びを継続している。 適切な情報の活用と保護を図る体制を整えている 情報の管理は区及び法人本部の指針に従って適切に行っている。職員は、入社時に事業の概要とともに基本的なルールについて学び、守秘義務や個人情報保護の趣旨についても確認している。事業の実施に関連して収集する情報は、高度な個人情報を含むものが多いため、施錠可能なキャビネットに保管している。法人本部のサーバー上のファイルにはアクセス権を設定し、事業所のパソコンにはパスワードを設定するなど、特定の情報へのアクセス自体を管理している。情報の開示手続きなどは、個人情報保護規程において明示している。				

5 職員と組織の能力向上		カテゴリー5	
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3 / 3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
募集、面接、採用を経て、配置後の育成を行っている 人材の募集は、各種媒体やホームページを活用して行っている。求職者(就業希望者)との面接は、本社で対面やオンライン形式で行い、必要に応じて現場においてエリアマネージャーと施設長により行っている。希望により、事業所での子どもの状況を見る機会を設けている。児童との関わり、児童の育成支援という業務内容に対して理解している職員が、信頼できる方を紹介できる採用制度もある。採用後は、対象者の成長をフォローできる担当者を配置し、実践を通して成長を支援している。 学びの意欲に応える育成の体系を構築している 法人として、人材育成の体系を構築し、個々の職員にいわば「成長の見通し」を示している。これにより、「今、自分に期待されていること」「次に、何を目指し、そのためにどんな力をつける必要があるのか」を理解できるようにしている。また、職員を複数の階層に分け、各階層に応じた研修内容を設定し、それぞれの段階で期待される力量・必要とされる知識などを養えるようにしている。そのほか、運営や現場での実践に結びつきやすい専門分野に特化した研修内容もそろえ、職員各自の向上意欲に応えている。 法人の仕組みを活用して、現場主導の業務改善を進めている 法人として、現場での業務改善の取り組みを奨励している(「カイゼン運動」)。気づきや声を施設内でまとめ上げ、実践し、その取り組みと成果を全社的に共有している。現場での創意工夫の事例を発表し、表彰されることで士気が向上したり、他の実践に触れることで刺激を受けたりしている。当事業所では、この仕組みを活用して残業時間の軽減に取り組み、より働きやすい職場、力を発揮しやすい職場づくりに結び付けている。		

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動		カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)		
「“やってみたい”“またやりたい”を見つけよう」という重要課題を掲げ、好奇心や挑戦する心、継続する力を養うことを目標とした。背景には、新しい遊びに挑戦する一方で、失敗や敗北を経験すると即座に諦めてしまう児童の様子があった。解決のため、フラダンスやバスケットボールの体験会を実施し新たな挑戦機会を創出したほか、校庭・体育館遊びを児童主体で仲間を集める形式に変更した。また、専門講師によるけん玉検定を年6回実施した。その結果、特定の体験会をきっかけに新たな活動やチーム加入へ至る事例が生じた。自由遊びでは児童によるルール発展や異学年間交流が活性化し、けん玉検定では認定証の取得が継続的な練習の動機付けとなった。今後は、継続する楽しさを実感した児童の増加を受け、体験会の継続や新規プログラムの導入を検討している。同時に、勝敗に拘泥し活動を中断する姿や、勝利に固執する振る舞いも確認された。そのため、次期は勝敗の結果のみならず挑戦の過程を評価し、自己肯定感の向上と他者への配慮を含めた社会性の育成を推進していく方針である。		
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 掲げられた目標は、失敗を過度に恐れる傾向にあった児童に対し、物事に取り組む姿勢を前向きに変える契機となった。未知の活動に触れる機会を設けたことは、既存の興味の枠を広げ、新たな自己の可能性に気づかせる場として機能した。また、遊びの形式を自由度の高いものへ変更したことは、自ら目的を持って周囲に働きかける主体性を引き出すことにつながった。段階的な目標設定を導入した試みは、小さな成功の積み重ねが困難を乗り越える意欲を支えることを示した。その結果、一時的な興味に留まらず、特定の活動を自発的に継続したり、集団の中で独自のルールを築いたりする成長が確認された。一方、勝敗などの結果に感情を左右され、他者との関係性に課題が生じる場面も明確になった。そのため次期は、物事の結果だけでなく取り組む過程そのものを認める働きかけを強め、自分への自信を深めるとともに、周囲と調和しながら活動を楽しむ力を高めていくことを課題として設定している。		

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「自分もみんなも気持ちよく過ごせる場所にしよう」という重要課題を掲げ、お互いを認め合い支え合う思いやりの心を育むことを目標とした。背景には、小学校移転に伴う環境の大きな変化への対応や、自己の感情の言語化および他者の感情を認める能力の育成が必要とされた状況があった。解決のため、上級生が司会として話し合いを主導するプログラムを実施し、夏祭りの出し物の企画運営を児童主体で行う取り組みを展開した。当初は多数派の意見が優先されていたが、話し合いの継続により少数意見を含めた集約が可能となった。意見の衝突時に強い言葉が使われた際には、職員が仲介し言葉を換えて伝えることで相互理解を促した。その結果、日常的に自身の感情を伝える児童が増加し、他者の心情を汲み取って譲歩する行動が確認された。今後は、相互承認のさらなる定着に向けて支援を継続するとともに、多様な意見を調整し合意形成を図る機会を確保していくことを目標としている。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

設定された目標は、環境が変化する中で子どもたちが落ち着いて過ごすための土台となった。年長者が進行を担う話し合いの場を設けたことは、自分たちで集団のルールや物事を決めていく経験を積む機会となった。単に人数の多い意見に従うのではなく、異なる考えをすり合わせる過程を繰り返したことは、周囲を尊重する姿勢を養うことにつながった。また、感情的な言葉が出た際に大人が客観的な表現へと言い換えて仲介したことは、自分の気持ちを整理し相手に伝わる形で表現する学習の場として機能した。自分の思いを言葉にし、相手に譲る姿が日常で見られるようになった事実は、集団内での安心感と信頼関係が構築されたことを示している。今後は、このお互いを認め合う関係性を基盤として、より自分たちで周囲の状況を把握し、協力して物事を進めていく力を高めていくことを目標としている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
サブカテゴリ1の講評		
放課後等の過ごし方の一つとして、学童クラブの概要を案内している 設置主体である区では、小学生の放課後等の過ごし方として、学童クラブを含むいくつかの事業を選択肢として設けている。それぞれの事業の特徴や対象者、利用手続き等は、ホームページや港区学童クラブ等入会案内などにおいて、網羅的に案内している。運営を受託している法人のホームページにおいても、「遊びを通じた学びの機会を提供」していること、子どもを中心に据えて、「意思を最大限尊重し、意欲的に取り組める場所」を創ること、個の尊重、「達成感や充実感を得られる遊びや集団生活」の保障等、追求・実践しているコンセプトを発信している。		
管轄する区の部署に毎月状況を報告している 港区の5つのエリアに設置された地区総合支所のうち、当事業所を管轄する支所高輪地区総合支所には、月次報告として、登録・利用人数、その月のプログラム、次月の予定などの運営状況を報告している。区のホームページにおいては、当事業所の情報－利用対象、利用条件、利用料金、おやつの有無、申込・申請方法、利用時間－を知ることができるようになっている。		
入学説明会への参加、見学の受け入れ、相談の受付など、多様な対応をしている 小学校が主催する入学説明会に、当事業所を含む3施設が参加し、事業の概要について説明を行っている。見学の希望者は比較的多く、当事業所を知るきっかけとしては、利用経験者による口コミによるものもある。見学時には、活動中の子どもの様子を見てもらうことでイメージをつかみやすくしている。自宅から近いか、就学先の小学校内かなど、悩む保護者も多い。当事業所としては、保護者の置かれている状況などに耳を傾け、相談に応じ、可能な範囲で情報提供を行うなどしている。		

サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当
サブカテゴリ2の講評		
サービス内容や基本的なルールを丁寧に説明し、提供している支援の理解につなげている 学童クラブ入会希望者は2月に申し込み手続きを行い、行政による利用の可否審査の結果を待ち、3月はじめに利用承認通知書により利用が決定している。利用承認通知と共に保護者向けの入会説明会開催の案内を送付している。説明会では事業の概要、活動の内容などのほか、持ち物、おやつ代、変更・退会、休業日などについて説明している。負担金が発生する場合の対応方法についても、案内している。子どもや保護者の状況などは、児童表(台帳)兼児童引き渡し表に記載している。		
環境変化への適応を支援している 子どもは、学童クラブという新たな環境で過ごすにあたり、友達がいる場合は、比較的スムーズに環境に適応している。異なる小学校区からの利用の場合などでは、一から友人関係を作っていくことになる。そうした場合は、一対一での関わりや言葉かけなどを積み重ね、子ども同士の関係づくりやその広がりを支援している。		
制度の隙間を法人の自主的努力で埋めている 特に配慮を必要とする子どもについても、受け入れ、適切な環境で過ごすことができるよう、人的・物的にも配慮している。保護者や所属する小学校との連携により、支援に必要な情報を確認し、人員体制を工夫し、子どもが快適な環境で安心して過ごすことができるように取り組んでいる。現状の制度・仕組みでは、年度途中での利用開始(受け入れ)により、職員体制の面での補助・補充が必要となっても、公的なバックアップを得られないため、法人の自力により、現場の安心・安全を確保する措置をとっている。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している ○非該当 ●あり ○なし 2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている ○非該当 ●あり ○なし 3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている ○非該当 ●あり ○なし 4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している ○非該当		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○ 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
日々の各場面においてプライバシーへの配慮を徹底している 育成支援を行っていくうえで、子どもや家庭の状況に関する様々な情報を収集することになる。そして、個人情報に該当するものについても、外部の方の目に触れる可能性のあるものもある。そこで、例えばおたよりへの情報の掲載などに際しては、あらかじめ保護者の意思を書面で確認したうえで、対応している。日常の各場面でのプライバシーへの配慮という面では、着替えを行う必要がある場合は別室を利用することで他者の目から守り、また、送り時など、戸外で対応する場合は、子どもの名前を不用意に出さないように配慮している。 活動の計画、各場面での対応などにおいて、子ども一人ひとりの思いを尊重している 「一人ひとりの尊重」という点では、育成支援の実施を支える計画の作成段階で、子どもの権利や利益を実践の根拠に置いている。そのうえで、子どもの思いに応える活動やプログラムを企画し、提供している。日々の関わりにおいては、例えば挨拶の際は、子どもの愛称などではなく名前を呼んで行っている。また、子ども同士のトラブルの際は、個別に話を丁寧に聞き、思いに言葉を添え、気持ちの整理や調整を支援している。そして職員全体で気につけ、フォローし、誰にとっても過ごしやすい場所であり続けられるように取り組んでいる。			

サブカテゴリ6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5 / 5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている ☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ☐ 非該当
サブカテゴリ6の講評	
優先度の高い分野を中心に、手順書を整備している 運営、育成支援の各場面における対応の手順や留意事項を、マニュアルとしてまとめている。特に、安全な育成支援の実施＝リスク管理の面は、子どもの命に関わるため、食物アレルギー対応や食品衛生管理、事故防止対応、不審者対応などの各マニュアルを整備している。感染症防止や防災・災害対応の面でも対策を明確化している。権利擁護という点では、虐待防止対応のマニュアルも常備し、対応体制を明確化している。 法人の仕組みを活用して、業務の実施や改善のプロセスの適正化を図っている 法人として、独立した部門が業務プロセス、内部統制、リスク管理などについて、客観的に検証・評価する活動を導入している(内部監査)。事業所内における掲示物の確認などのほか、予算計画、事故防止や防災の対策、鍵の管理、研修の進捗状況の確認などを行っている。こうした取り組みにより、業務の実施や改善のプロセスの適正化を図っている。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	29 / 29
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	☐ 非該当	
評価項目1の講評			
子ども同士の関わりが豊かな経験につながるよう、日々支えている 子どもが「楽しむ(Enjoy)」ことを主眼に置いたプログラムを提供している。共通のテーマで学年を超えて楽しむことで、交友関係の広がりが見られている。かつて年上の児童に可愛がってもらった経験を持つ学年の子どもは、今度は自分たちが年下の子どものお世話をしたりする姿を見せけている。在籍児童の入れ替わりがあっても、子どもにとって良い経験が引き継がれ、後の子どもがまた受け取るという、好循環が生まれている。こうした豊かな経験を、日々の積み重ねを通して支えている。 遊びや活動の中での衝突、感情的摩擦に、子どもの気持ちを踏まえて対応している 成長の過程で起こる子ども同士のトラブルに際しては、当事者の話を聞き、原因や経緯を確認し、その後のより良い関わりにつなげていけるよう、丁寧に関わっている。自由あそびの中で玩具をめぐってつかみ合いになる、遊びをめぐって「入れて」「いや」「なんで」と揉める、物をあげる・もらうなど、様々なものが起こりうる。そこで、言葉を介したやり取りを積み重ねる、気持ちを和らげる、ルール の 定着を図るなど、子どもの気持ちに配慮したり、特性を踏まえたりするなど、様々な工夫して対応している。			

2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○ 非該当
評価項目2の講評			
それぞれの思いに応える環境設定を追求している 利用人数の増加に伴い、室内のレイアウトの変更により遊びや活動場所の確保を行うなど、環境面において工夫を重ねている。室内には、カードゲームや構成玩具、書籍(絵本や読み物)、カルタなど、様々な玩具や素材を準備している。子どもの目線に合わせて、手の届く高さに設定し、自主的な選択に供している。共通のテーマでの遊びや活動という面では、興味や関心に応えるプログラムを設定し、子ども同士の意見の出し合いやすさを通して進めていけるもの、積極的な参加だけでなく見学という形での参加もできる配慮など、工夫している。 基本的な生活習慣の維持を支援している 利用開始直後の時期は、新たな環境下におけるルールに慣れること、自分の持ち物の管理方法を覚えること、集団で快適に過ごす上でのマナーを知ることなどをねらいとして、学童保育での時間を過ごしている。そして徐々に生活・活動に慣れてくると、生活習慣の面でも働きかけを行っている。基本的には保育園等での経験の積み重ねがあるため、確立した生活習慣から意図的に外れた振る舞いを見せる場面があれば、助言や注意をしている。掲示物による案内や職員の関わり、そして経験の積み重ねにより、「自分のことは自分で」行うことを積み重ねている。			
3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目3の講評			
「様々な経験を通じて、主体性と協調性を育む」という法人理念を実践している 月例行事として、「おりがみの達人」「やきゅうの道」「めんこ大会」「けん玉マスター」「ポッチャ体験会」「Enjoy Play」など、多様な活動プログラムを設定している。得意な面を活かす、集中する、友達同士で切磋琢磨する、体を動かして純粋に楽しむ、人に認められる、満足感を得るなど、多様な経験を通して内面的にも充実したり、人との関わりが広がりや深まりがまた経験の広がりにつながったりしている。「様々な経験を通じて、主体性と協調性を育む」という法人理念の実践が見てとれる。 良い経験、心地よい経験が年度を超えて引き継がれている 子どもが楽しむことを主眼に置いたプログラムでは、学年を超えた交友関係の広がりが見られている。年上の児童に可愛がってもらった経験を持つ子どもは、今度は自分たちが年下の子どものお世話をしたりする姿を見せている。在籍児童の入れ替わりがあっても、子どもにとって良い経験が引き継がれ、後の子どもがまた受け取るという、好循環が生まれている。			

4 評価項目4

子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○ 非該当

評価項目4の講評

「活動の継続」を期待感につなげ、「通い続けたい」という気持ちを支えている

プログラムの実施にあたって大切にしている視点の一つが「継続」である。「ここに来ればこれができる」という期待感は、進んで通い続けるための原動力の一つとなる。また、毎日の積み重ねという部分では、「おかえり」「こんにちは」などの声かけを大切に、「安心できる大人がいる場所」「安心できる居場所」として子どもの心に定着するように配慮している。一日の流れは、全体のお話しの中で伝え、ホワイトボードにも掲示し、見通しを持って生活を組み立てていけるように工夫している。

子どもの実感を通して室内の快適な状態が維持されている

様々な玩具や素材などを収納する棚には、それぞれの所定の場所を示すイラストを明示している。これにより、「定まったところに片づける」ということを考えて行動に移せるようにしている。本棚の書籍も、順番に沿って並べ納めるということ、子どもが経験を重ねることに理解して実践している。「整っている状態」＝「自分にとっても、他者にとっても使いやすい状態」＝「快適な状態」が子どもの実感を通して維持されている。

5 評価項目5

子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○ 非該当

評価項目5の講評

運営や育成支援の両面で、小学校との協力や情報交換を行っている

小学校、運営法人の本部、行政などとの日常的な情報共有により、必要な際には円滑な連携により適切に対応できる環境を整えている。小学校、特に副校長や担任教諭とは、施設や設備の利用という運営面での関わり、対応が必要な課題に関する協議や相談という育成面での関わりなどを通して、協力や情報交換を行っている。

子どもの「その後」「その先」を見据えて、日々の関わりを積み重ねている

小学校への就学後、様々な事情で解決が難しい課題を抱えるケースもある。そうした場合は、小学校の副校長や当該児童の担任教諭と連携し、登室状況や子ども同士のトラブル、活動中の様子などについて共有している。そして、その時々の子どもの状況に応じた支援を検討し、実践している。学童クラブで過ごす時間＝当事業所が本来に担う責任の範囲という意味では、限られる面もある。それでも、日々の育成支援の実施経過を記録として積み重ね、子どもの「その後」＝将来につなげていく姿勢で日々子どもに向き合っている。

6	評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	☐ 非該当	
評価項目6の講評				
地域や旬を意識したおやつを提供している おやつ提供に際しては、パテーションを活用して空間を仕切り、落ち着いて楽しむことができる環境を整えている。提供するおやつは、安心・安全に配慮したものを用意している。また、特別感のあるものを取り入れることで、子どもの楽しみにアプローチしている。毎月の「スペシャルおやつ」では、全国47都道府県の名産品を取り上げたり、その時季の旬の食材や地域の食材を取り入れたりしている。八百屋で購入したサツマイモを用いた焼き芋の提供などもその一例である。 多様な特定原材料を確認し、安全な食の提供に取り組んでいる 子どもの安全な栄養補給と食物アレルギー事故防止のため、アレルギーに留意したおやつを提供を行っている。原因となる特定原材料の種類も子どもにより異なるため、利用開始時の面談の際に、詳細を確認している。こうして得られた情報を一覧にし、職員間での確認と共有に活かしている。そのうえで、提供に際しては、複数の目で確認し、また、専用のトレーを用いるなど、対象児が安全なものを確実にとることができるように配慮している。				
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当	
評価項目7の講評				
子ども自身が健康や衛生管理を意識できるように日々関わっている 健康維持の面では、子どもが自分で自分の身を守り、健康や衛生面に配慮していくことができるように関わっている。手洗いなどのポイントを掲示し、その他の点でも日々言葉をかけ、おやつの前や外遊びから戻ってきた際の手洗いなど、子どもが自分で意識してできるように取り組んでいる。感染症対策の面での意義もあるため、例えば保健所から手洗い実験キットを借りて、手洗いの「洗い残し」を可視化するような経験も、取り入れていくことを検討している。 医療的ケア児の受け入れについて、必要な対応を確認している 医療的なケアを必要とする子どもの受け入れを行うことになる場合は、その前の年度の時点でその旨の通知を受けることになる。その際は、利用開始前の段階で支援に必要な事情、状況、意向などを確認し、関係機関と連携を図り、また、職員配置などの面でも必要な対応をとることになる。現時点では対象児の受け入れはないため、日常的は、アレルギー対応などの面での対応の確認・実践を継続的に行っている。				

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目8の講評

保護者の事情に配慮しつつ、必要な対応を行っている

放課後等の時間において子どもが安心して安全に活動できる居場所を提供することを通じて、保護者の子育てをサポートしている。単に「時間を過ごす場所」ではなく、遊びや活動など、様々な経験を通して健やかな成長を支援している。就労状況に配慮し、個別に連絡をする際は時間帯なども調整している。個別の面談の要望に対しても、希望を踏まえて日程を調整して対応している。登下校メールサービスを活用し、保護者に必要な情報を適宜伝え、安心につなげている。

子どもの様子に触れ、保護者が安心できる機会を設けている

年間で2回、保護者会を開催している。子どもの様子や長期休暇に向けた連絡事項などを伝えている。夏祭りやプログラムなどでは、保護者と子どもがともに参加できる企画を取り入れている。ポッチャ体験会では、ともに汗を流し楽しむ機会となった。お盆の時期に開催した夏祭りでは、保護者の手伝い・協力を得ることができた。区民まつりなども、見てもらう機会を設けた。こうした行事などに参加することで、保護者は、家庭でのものとは異なる子どもの様子に驚き、成長を実感することができている。

移転に伴う安全上のリスクの変化に対応している

行き返りにおける子どもの安全の確保という点では、保護者には予定表の提出や登下校メールサービスへの予定登録をお願いし、受付簿に内容を反映している。現在、小学校とともに当事業所も仮校舎に移転中のため、子どもの通学経路や帰宅経路が長くなっている。それにより、職員による途中までの送りに徒歩以外にもバスも加わるなど、高まる安全上のリスクに対し、日々真摯に、また丁寧に対応し、子どもの安全と保護者の安心につなげている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

地域に根ざした多様な経験を取り入れている

当事業所が所在する地域のお祭りや、PTA主催のお祭りなどに参加している。日々のプログラムの中で実施しているダンスを子どもが披露する機会を作り、自分たちが精いっぱい楽しむ姿を地域の方に見てもらっている。また、「地域の製品を使用・消費することを通じた地域貢献」という法人の基本的な考えに則り、地元商店で購入した菓子類をおやつの提供時に用いている。地元地域に根ざした多様な経験を取り入れている。

地域様々な人々の力を得て、交流し、経験や活動の充実につなげている

港区に登録した有償ボランティア(サポーター)の協力を得て、活動終了後の送り時の子どもの対応(見守り)などの補助的役割を担って頂いている。ポッチャやバスケットボール、フラダンスなどの体験会なども、地域の方が講師として力を発揮してくれている。地域の様々な方々との関わりを通して、楽しみ、刺激を受け、学び、また見守られている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	現場職員の意欲を業務改善につなげている	
内容①	法人として現場での業務改善の取り組みを奨励する仕組みを設けている（「カイゼン運動」）。気づきや声を施設内でまとめ上げ、実践し、その取り組みと成果を全社的に共有している。表彰されることで士気が向上したり、他の実践に触れることで刺激を受けたりしている。当事業所でも残業時間の軽減を図るなど、この仕組みを活用して現場の創意工夫を引き出し、より働きやすい職場、力を発揮しやすい職場づくりに効果を発揮している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもがおやつを楽しめるよう援助している
タイトル②	「おやつ」という食の提供に変化を持たせ、子どもの楽しみや喜びをもたらしている	
内容②	学校から帰宅後の夕食までの間の空腹を満たし、活動に必要なエネルギーを補う「補食」としてのおやつの意義を踏まえ、食品衛生責任者を配置し、職員が連携して安全安心のおやつを日々提供している。また、子どもにとっての「楽しみ」という面も踏まえ、特別感のあるものを取り入れることで、子どもの楽しみにアプローチしている。毎月の「スペシャルおやつ」では、全国47都道府県の名産品を取り上げたり、その時季の旬の食材や地域の食材を取り入れたりしている。八百屋で購入したサツマイモを用いて焼き芋を提供する日もある。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-3-2	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している
タイトル③	現在の子どもの「その先」を見据え、総力を挙げて今できる支援を積み重ねている	
内容③	小学校への就学後、様々な事情で子どもが困難を抱えるケースもある。そうした場合は、小学校の副校長や当該児童の担任教諭と連携し、登室状況や子ども同士のトラブル、活動中の様子などについて共有している。そして、その時々の子どもの状況に応じた支援を検討し、実践している。学童クラブで過ごす時間＝当事業所が本来担う責任の範囲という意味では、限られる面もある。その中で最大限できることに取り組み、日々の育成支援の実施経過を記録として積み重ね、子どもの「その後」＝将来につなげていく姿勢で日々子どもに向き合っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	明確な目的意識に基づく育成支援上の様々な活動を通して、一人ひとりの着実な成長を支えている
	内容	学童クラブとして約40名の小学生を受け入れ、放課後の時間における居場所の提供や活動の機会を提供している。この実践の内実は、「子どもの健やかな成長に資する豊かな経験の保障」である。様々な活動プログラムには、自己を表現したり、気持ちを調整したり、社会性を育んだりする視点が盛り込まれている。また、職員による日々の関わりは、「育ち」のために子どもが積み重ねることが有益な経験を意識したものであり、また、育成上の課題の解決を志向したものである。こうした実践は、日々の育成支援の経過の詳細な記録にも裏付けられている。
2	タイトル	「より良い育成支援」という確固たる目的意識に基づき、創意工夫を重ねている
	内容	書類や文書による確認・理解を進めつつ、令和7年秋より、日誌の記載方法を変えた。これは、職員間での伝達・情報共有の精度をより高めていくことを意図した改善である。新たな方式では、日々の状況を以前よりも詳細に書くようにし、各職員の工夫例についても共有を図っていくようにした。「より良い育成支援を実施していくため」という確固たる目的意識に基づく実践は、多忙な状況にあっても創意工夫を生み出している。そして、子どもの利益やより良い育成支援、職員の仕事のしやすさなどにもつながっている。
3	タイトル	「子ども主体」の視点に基づく一貫した活動を展開している
	内容	子どもが楽しむことを主眼に置いたプログラムでは、学年を超えた交友関係の広がりが見られている。年上の児童に可愛がってもらった経験を持つ子どもは、今度は自分たちが年下の子どものお世話をしたりする姿を見せられている。在籍児童の入れ替わりがあっても、子どもにとって良い経験が引き継がれ、後の子どもがまた受け取るという、好循環が生まれている。また、活動の中で意見を出し合い、作り上げ、展開させていく中で、子どもの主体性が発揮されている。子どもの持つ力を信頼し、その発揮を支援することで、豊かな経験を生み出している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	引き続き地域とのつながりを耕し、子どもの生活・活動の充実、地域とともに子どもを支えていく関係の深化につなげていく
	内容	お祭りへの参加、スポーツやダンスの体験会、地元商店からの商品の購入など、様々な形で地域との関わりを持ち、子どもの豊かな経験につなげ、また事業所として地域に根ざす取り組みを行っている。令和6年度に現在の仮校舎に移転後、令和11年中に予定されている元の場所への再移転までの限られた期間においても、現地域での関わりは、子どもにとって必要かつ有益なものである。引き続き地域とのつながりを耕し、地域における子どもの生活・活動の充実、地域とともに子どもを支えていく関係の深化につなげていくことを課題としている。
2	タイトル	業務手順の明確化(マニュアル化)を進めていく
	内容	利用人数の増加に伴い、室内のレイアウトやおやつを提供方法の変更を行うなど、環境面や対応方法において工夫を重ねている。改善⇒見直し⇒再実行の過程を経て確立された手順は、組織的な取り組み＝各職員が理解し実践するべきものとして、「標準的な業務手順」として位置付けていく必要がある。これは、職員による対応のばらつきを摘み、一定水準のサービスを提供していくこと、職員の不安をなくすことなどにつながる。今後も、実施の手順や留意事項の明確化と組織内での共有を図っていくことを課題としている。
3	タイトル	当事業を支えていく仕組みの導入・創出の必要性を、行政とも共有していく
	内容	特に配慮を必要とする子どもについても受け入れ、適切な環境で過ごすことができるよう配慮・工夫している。現状の制度・仕組みでは、年度途中での利用開始(受け入れ)により、職員体制の面での補助・補充が必要となっても、公的なバックアップを得られないため、法人の自主的努力により、現場の安心・安全を確保する措置をとっている。事業の継続性を確保していくためにも、また、他事業所との共通課題であるという意味でも、当事業を支えていく仕組みの導入・創出の必要性を、行政とも共有していくことを課題としている。